JFW青少年少女釣り大会を横須賀で開催

日釣振神奈川県支部などメバル放流も

（公財）日本釣振興会神奈川県支部（山口充支部長）では、全日本磯釣連盟神奈川県支部との共催により第15回JFW（日本つり週間）青少年少女釣り大会を横須賀・平成町の横須賀海辺つり公園において7月21日に開催し、多くの参加者で賑わった。また、当日は同所でメバルの稚魚放流も実施した。

当日は好天に恵まれ夏休み最初の日曜日ということもあって大勢の家族連れが来場した。大会の参加者は約170名で、そのうち子供は90名。他にスタッフが25名。

大会では共催の両団体より代表者が開会の挨拶をして、続いて神奈川県栽培漁業協会の今井専務理事が放流するメバルの特徴や生態などについて説明した。それから参加した子供たちの手によって体長7㌢のメバル稚魚約1000匹を横須賀の海に放流した。

そして、釣り大会では参加者たちが暑さを忘れ元気に釣りを楽しんだ。この日の釣果はカタクチイワシ、海タナゴ、カサゴ、ベラ、アジ、サバ、ダツなど多彩な魚が続々と釣り上げられ、検量所に持ち込まれた。

大会は各魚種別に1匹の長さで審査。それぞれ1位から3位までに表彰状とトロフィー、そして豪華賞品が贈られた他、大型賞、特別賞もあり、会場は好成績を収めた子供たちの歓声に包まれていた。日釣振からは真夏の暑さの中、釣りをしている間中、ずっとライフジャケットを着用していた土屋美裕ちゃん・勇朗君の姉弟にマナー賞として表彰状とメダルが贈られた。なお、昨年は地元横須賀出身の小泉進次郎議員に表彰式のプレゼンターとして参加して頂いたが、当日は参議院議員選挙の投票日のため、残念ながら参加して頂けなかったが、祝電を頂き、表彰式に花を添えた。

この大会では、子供たちに釣りの楽しさ、魚を釣り上げる喜びを知ってもらうことの他、自然の中で生き物と触れ合うことで海や水辺を汚さず、小さな魚は海に帰すことにより、きれいで豊かな釣場を守っていくためのマナーを学んでおり来年以降も継続して開催を予定している。

横須賀海辺つり公園で恒例の釣り大会を開催㊤、上位入賞者たち㊥、釣果を手にする参加者たち㊦

が、徐々に釣れたという人が出てきた。こうして釣り指導員の指導のもと手取り足取り教えてもらいながら、最後は夢中で釣りを楽しんだ。そして実釣が終了するまでにはほぼ全員へらぶなを釣り上げて、その魅力を実感することができた。

最後に終了10分前に片付け講座を行い、釣竿や仕掛けなどの仕舞い方を学んだ。

その後、閉会式で瀧瀬孝次副支部長と「つり堀中の島センター」の戸張達雄社長が挨拶し、参加者にアンケートの記入に協力を依頼、全員で記念撮影をして解散した。

なお、この次の初心者へらぶな釣り教室は9月7日、川越フィッシングセンターで開催することにしている（別掲）。